

【共同研究】

## teen courtの研究

太田 和敬\* 浅野 正\*\* 石橋 昭良\*\*\* 神田 信彦\*\*\*\*  
前嶋 和弘\*\*\*\*\* 宮下 毅\*\*\*\*\* 森 恭子\*\*\*\*\*

### Study of Teen Courts

**Kazuyuki OTA, Tadashi ASANO, Akiyoshi ISHIBASHI, Nobuhiko KANDA,  
Kazuhiro MAESHIMA, Takeshi MIYASHITA, Kyoko MORI**

「teen courtの研究」は、文教大学人間科学部30周年記念行事の一環として、2008年から2010年にかけて行われた共同研究である。近年学際的研究の必要性が強くなり求められながら、実際にはあまり行われていない現状があった。人間科学自体が総合的な科学を目指しており、その発展のためには学際研究こそが柱となる必要があるとすらいえる。そこで「teen court」の研究では、人間科学部に所属し、少年犯罪に関わるすべての領域の専門家による共同研究を目指した。

teen courtは、少年の軽い犯罪を扱うアメリカ独自の司法システムにおけるダイバージョン・プログラムであるが、少年犯罪や非行は、単に法律学の対象ではなく、様々な領域に関係しており、また、大人の犯罪に対して、応報的な罰を与えることよりも、少年の更生を目指す教育的な処遇がより重要であるという特殊性もある。その意味で、法律学だけではなく、社会学、心理学、教育学、福祉学からのアプローチが求められると考えられ、幸いに人間科学部にはこのすべての領域の専門家が在籍しているので、この5分野の研究者からなる共同研究を組織することができた。理想的には、脳神経学などのアプローチも望まれたが、そうした研究は今後に待ちたい。

なお本研究は人間科学部及び文教大学から研究費の補助を受けて行われた。(文責太田)

### 【内容】

teen court教育学的研究	太田和敬	123
被害者の視点を取り入れた教育の効果的な実践—再犯抑止と被害者支援の観点から—	浅野 正	137
ティーンコート—非行臨床からの検討—	石橋昭良	145
ダイバージョンとしてのティーンコートのわが国への導入の可能性		
—大学生の意識調査をもとに—	神田信彦・宮下 毅	155
草の根の公共政策としてのティーンコート—ワシントン市を例にとりて	前嶋和弘	163
ティーンコートが示唆するもの—地域福祉の視点からの検討—	森 恭子	169

---

\* おおた かずゆき 文教大学人間科学部臨床心理学科  
\*\* あさの ただし 文教大学人間科学部臨床心理学科  
\*\*\* いしばし あきよし 文教大学人間科学部臨床心理学科  
\*\*\*\* かんだ のぶひこ 文教大学人間科学部人間科学科  
\*\*\*\*\* まえしま かずひろ 文教大学人間科学部人間科学科  
\*\*\*\*\* みやした たけし 文教大学人間科学部心理学科  
\*\*\*\*\* もり きょうこ 文教大学人間科学部人間科学科